

科目名	年度	レポート番号	クラス	学籍番号	名前
API 実習	2022	5	B	20121028	佐藤大樹

ページ数や文字数よりも、読んでわかりやすく書けているかどうか、点数アップの分かれ目です。

設問(1)

この科目で学んだ内容を第3者(他学部の学生や親など)にわかるように説明せよ。

今回受講した API 実習では、主に API の開発と連携について学んだ。

「API」とは、「Application Programming Interface (アプリケーション プログラミング インターフェイス)」のことでそれぞれ英単語の頭文字からとったものの名称になっている。

インターフェイスの意味は、その「もの」と「もの」をつなぐものである。講義の中で説明があった例をあげると USB 等の周辺機器がインターフェイスにあたる。パソコン・スマートフォンをつなぐものなので該当する。

つまり、アプリケーションとインターフェイスをつなぐものが API ということになる。

API は、外部に公開することで、利用者である第三者の開発したアプリ・ソフトウェアと機能を共有することが可能になる。

どのような機能を共有できるのかというと認証機能やデータを取得し、別なソフトでデータの解析・公開ができるようになり、機能の拡張を図ることが実現可能になる。

これによりメリットがある。開発の作業効率が上げることが出来る。公開された API を利用すれば、一から構築しなくとも API ソースのおかげで効率化が図れる。それに伴いコスト削減も見込める。開発にかかる時間を短縮化できる。

設問(2)

レポート(4)をもとに、API 連携作成または API を用いたサービス開発結果を書いてください。何かしら動くものが出来ている前提です。

名称

LDH 検索

概要(作ったものの説明)

LDH のメンバーを検索すると所属グループが返ってくる

所属グループがすぐわかる。

画面ショット(動作がわかるように画面を交えて説明)

名前を送ることで所属グループが返ってくる仕組みとなっている。

